

自然

総面積の8割以上を森林が占め、豊かな自然に囲まれた置戸には、いまも熊や鹿が住み、野鳥や植物の数も実に豊富です。郷土資料館では、これら動物のはく製や、植物、鉱石の標本なども展示しています。

(氷河時代の残存種といわれるナキウサギは、残念ながらはく製がなく展示することができません。)



石器類の多くは黒曜石で作られており、置戸はその黒曜石の四大産地としても有名です。先住民族たちは、豊富にある黒曜石を使って、ここで石器に加工したり他の地へ持ち運び狩猟や生活の用具として広く使用していたことでしょう。町内の遺跡では数多くの石器が発見されていますが、その一部を展示しています。

先史

生活

一角に設けられた昔の茶の間。そこには囲炉裏火が燃え、石油ランプが吊るされています。ちゃぶ台には三平皿がのり、熊の皮の敷物のそばには、キセルやタバコ盆、壁には仕事着のはんてんが無造作にかけられています。さらには魚をすくう網、ヤス、大きなカメ、石ウスなど…。昭和初期の農村生活を支えた様々な道具が所狭しと並べられ、当時の暮らしぶりを再現しています。



置戸町郷土史研究会
大矢 孝男さん

郷土史研究会では、教育委員会からの委託を受け、郷土資料館の開館業務にあたっています。所蔵資料の多くは、本会設立時の会員が廃屋となる家を訪ね仕事や台所で使っていた品を貰い受けたものですが、今となってはどれも貴重なものばかりです。施設の老朽化や、開館業務を担う会員の高齢化等課題はありますが、今後も郷土の歴史を後世に伝承するための活動を継続していきたいと思ひます。

観覧のご案内

開館期間

5月から11月3日までの
第1、第3土曜日

開館時間

午後1時から4時まで
(団体等特別の申し込み
があった場合には随時開
館します)

問い合わせ

中央公民館 (☎52-3075)